

ロケットから原子力関連まで 超精密バルブで世界屈指



ガス供給システム



燃料電池自動車
高圧水素充てん機用
制御弁・遮断弁

株式会社フジキン

**宇宙ロケット用精密バルブは
国内シェア80%**

液体や気体等の流体を制御するために、必要不可欠となるのがバルブの存在である。フジキンは、特殊バルブ機器類や超精密ながれ（流体）制御システムにおける世界のトップメーカーだ。原子力発電、海洋開発や半導体生産プロセス等、超最先端の技術が必要とされる分野において、同社の製品は数多く使用されている。なかでも、ロケット燃料の制御や宇宙空間での生命維持装置等、宇宙開発業界へは多数の納入実績を誇る。国産宇宙ロケット用精密バルブの国内シェアで約80%を占めることから、技術の高さが伺えよう。

同社は昭和5年、配管機材、機械工具問屋として創業。間もなく製造に乗り出すが、長い歴史を持つバルブ業界では、後発に過ぎなかった。「最初のヒット商品は、昭和28年のニードルバルブ。単価が安く、他社が開発に手をつけなかった商品でした。他社と同じことをしているは生き残れない。創業当初のこの気概こそが、研究開発型メーカーとしてのルーツとなっています」と小川洋史社長は話す。その後も、鍛造製バルブ、高圧ガスバルブ、セラミックバルブ、電子バルブ等、当時の常識を覆す商品が続々と発表。「新しいことをやるならフジキンへ」。一躍その名を世界に轟かせるようになった。

「ロケットにしても、昭和50年代に大手バルブメーカーが手を出さなかった分野。宇宙開発事業団の担当者二人三脚で徹夜作業の繰り返しでしたが、この精神は今も当社の開発者に脈々と受け継がれています」。

ながれ制御で 世界一の技術構築

現在、研究開発の中心は昭和63年設立の大阪ハイテック研究開発センター。清浄度世界一のウルトラスーパークリンルームや各種最先端設備を導入し、ナノテクノロジーやメディカルエンジニアリング、福祉機器等の新製品開発が進行中。また筑波フジキン研究工場でも、燃料電池や環境制御装置等エコロジー分野の開発にも余念がない。来年度には、ベトナムに10万m²という広大な新工場を開設し、グローバルネットワークの

確立を目指す。

小川社長のモットーは「人こそ財産」。転んでもすぐに起き上がる「ダルマ精神」を合言葉に、逆境に強い人材の育成に努めているという。

「要は考え方なんです。バルブを『ながれを制御するもの』と捉えれば、人間の循環器系における心臓も一種のバルブ。消化器系も呼吸器系も人体はすべてバルブ機器類が集積化された、理想のモデルです。プラス思考で考えていけば、今後も技術応用の可能性は際限なく広がっていくでしょうね」。

主な事業内容

宇宙ロケット、原子力、燃料電池、半導体関連精密バルブ、超精密電子ながれ制御システム装置の製造・販売・サービス等



小川洋史さん
代表取締役社長

株式会社フジキン

Company Profile

住所 / 〒550-0012
大阪府大阪市西区立売堀2-3-2
創業 / 昭和5年5月
設立 / 昭和29年9月
資本金 / 31億円
従業員 / 2,100名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6532-5601
FAX / 06-6533-1812



<http://www.fujikin.co.jp/>